

19 循環資源の輸出と国内の循環資源市場の関係

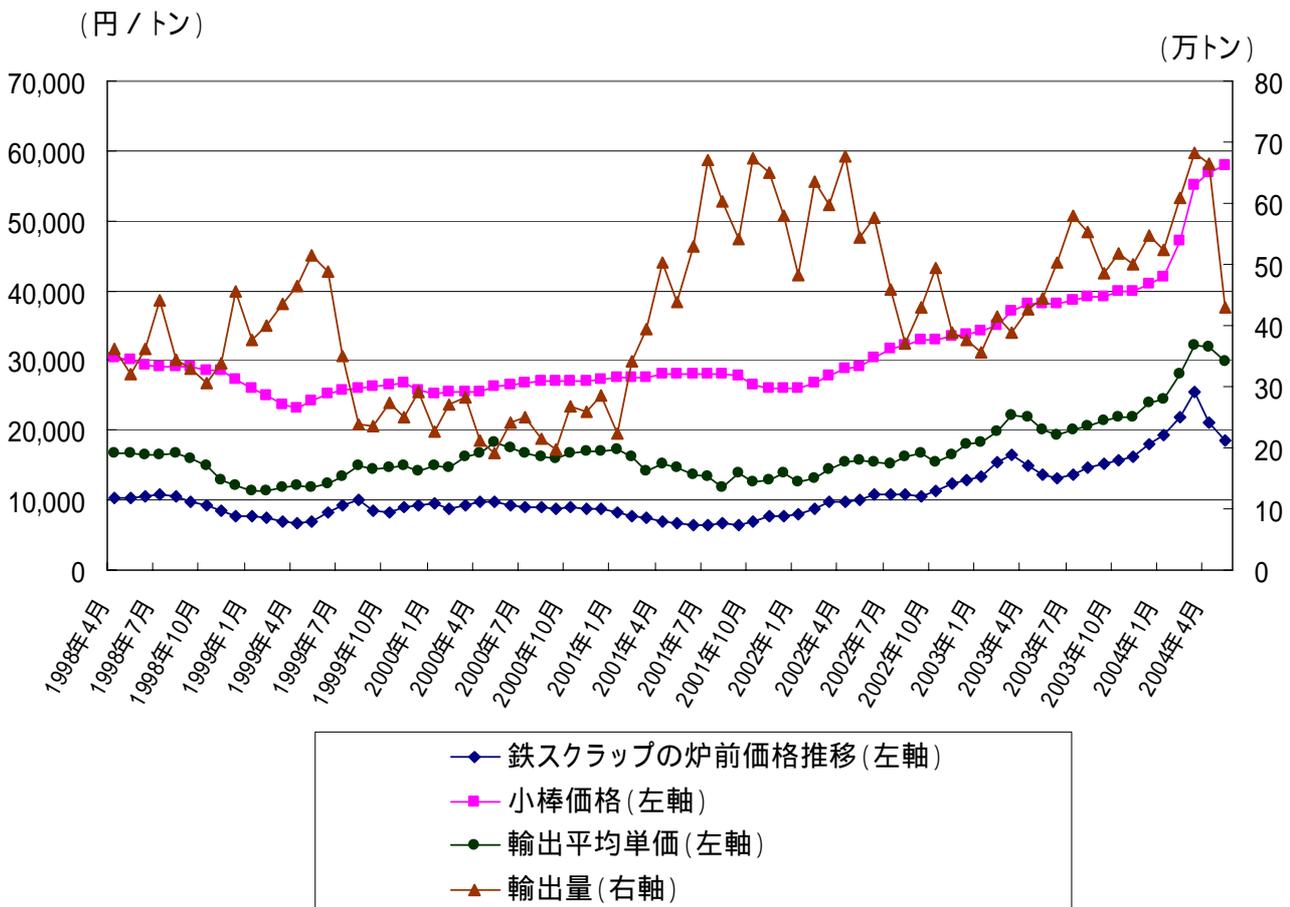
<鉄スクラップ>

中国の鉄鋼生産・消費の構造的拡大により鉄スクラップの需要が世界的に高まっている。日本から海外への鉄スクラップ輸出量が増加している一方で、国内における鉄スクラップ価格も上昇している。原材料の調達に苦心するようになった電炉メーカーが減産を行う事例も出てきている（図1、表1）。2004年3月をピークに輸出量は減少、鉄スクラップ価格も下降傾向にある。

<古紙>

中国向けの古紙輸出が増加した場合に、段ボールの原紙メーカーや製紙メーカー、古紙問屋が古紙の在庫を十分確保できないというケースや、取引価格が上昇して国内素材メーカーの収益を圧迫することも生じるようになってきている（表2）。

<鉄スクラップ>



注：小棒=19mm、仲間相場、東京安価平均

鉄スクラップの炉前価格は(社)日本鉄源協会モニター価格(三地区(関東・中部・関西)のH2メーカー中値平均)

出所：鉄スクラップの炉前価格は(社)日本鉄源協会ウェブサイト、小棒価格は「鉄鋼新聞」、輸出平均単価及び輸出量は財務省「貿易統計」に基づく

図1 鉄スクラップの価格、小棒¹価格、輸出価格と輸出量の推移

¹ 電炉の主製品

表1 新聞における鉄スクラップ需給関連記事

| 出所 | 記事の内容 |
|-----------------------------------|---|
| <p>日本工業新聞 2004年 2月24日</p> | <p>東京製鉄、建築向け鋼材を大幅値上げ 独立系電炉最大手の東京製鉄は3月1日出荷分から、H型钢、熱延鋼板など建築向け鋼材でトン当たり6000～1万2000円の大幅値上げに踏み切る。上げ幅は11.1～18.5%。中国での鉄鋼原材料の需要増を背景に電炉原料のスクラップ不足が深刻化、市中価格が急騰しているため、生産量も3割程度減産する。トン当たり1万円を超す値上げは「30年前の第1次石油ショック以来」(安田英憲常務)で、今回の最大値上げ額1万2000円は過去最大規模とみられる。 東京製鉄の建築向け鋼材の卸価格は、昨年秋までほとんど変化がなかったが、H型钢などを中心に値上げが少しずつ浸透、2003年12月にはH型钢のベース価格が5万円を超えた。2月は5万8000～6万4000円に5000円値上げしたばかりだが、スクラップ市況を反映して一気に金額ベースで2倍以上の値上げを実施する。 (中略) 建築材料や機械部品などに使われる市中向け鋼材は、自動車や造船などの個別取引とは異なり、鉄鋼メーカーが販売価格を設定するが、各社とも原材料高騰による逆ザヤ解消に向けて値上げに動いている。高炉より小規模な普通鋼電炉は主原料に鉄スクラップを使うため、中国向けスクラップ輸出増による原料不足の直撃を受けている。 建築向け鋼材で高いシェアをもつ普通鋼電炉最大手の東鉄が大幅値上げに踏み切ることで、電炉各社はもとより、新日本製鉄など高炉大手も追随する見通しだ。</p> |
| <p>鉄鋼新聞 2004年 2月20日</p> | <p>鉄源協調査/鉄スクラップ値急上昇/過去最高の1500円高 鉄スクラップ市況は全国的に騰勢を強めており、日本鉄源協会(会長・平尾隆新日本製鉄副社長)が19日発表した2月第3週の全国鉄スクラップ市況(メーカー購入価格)では、市況動向全体の有力指標になる関東、中部、関西の主要3地区平均価格はH2=2万2300円(1トン)で前週比1500円高と急伸した。 (中略) 鉄スクラップは品不足で、メーカーでは入荷促進に購入価格を連日のように上げている。市中ヤード業者ではなお先高とみて手持ち玉の出荷は遅らせる様子もうかがえ、品不足と市況上昇に拍車がかかる格好だ。海外市況の高騰で輸出価格も上伸中。 (後略)</p> |
| <p>鉄鋼新聞 2004年 2月3日</p> | <p>大同特殊鋼 原料不足で緊急減産/特殊鋼需給、さらにひっ迫/スクラップ市況に影響も/史上初の異常事態 大同特殊鋼(社長・高山剛氏)は主原料である鉄スクラップ価格の高騰に伴う入荷減が続いているため、2月から粗鋼の大幅減産に踏み切る。詳細については明らかにしていないが、月2万トン、20%の減産(従来の生産量は月10万トン)になるものとみられ、3月も同規模の生産にとどまる見通しだ。特殊鋼トップの同社が大幅減産に入ることで特殊鋼需給が一段とひっ迫する一方、高騰を続けるスクラップ市況の鎮静化にもつながることが予想され、製品、原料両面へのインパクトは大きい。あふれるほどの需要がありながら原料事情により減産を余儀なくされるのは、過去に例がない異常事態だ。 中国の鉄鋼生産・消費の構造的拡大により鉄スクラップ需給の世界的なひっ迫状態が常態化している。米国コンボジット価格は最高値を更新中で、米国鉄鋼業には鉄スクラップの緊急輸出規制を政府に働きかける動きが出ているほどだ。 日本国内の鉄スクラップ価格も昨年後半から急騰、同社の購入価格は2002年初と比べ1万3千円(トン当たり)この半年間だけでも7千円(同)上昇している。同社にとっては鉄スクラップ1千円(同)の上昇は年12億円の減益要因になると言われており、今年度下期は厳しい経営を強いられている。 鉄スクラップ価格が高騰する中で昨年11月からは入荷も減少、従来のフル生産を続けることが難しい状況になったため、2月から粗鋼の大幅減産に踏み切ることにした。 (後略)</p> |

<古紙>

表2 新聞における古紙需給関連記事

| 出所 | 記事の内容 |
|--------------------------------|---|
| 朝日新聞 2004年 3月12日 | 古紙引っ張りだこ対中国輸出 新エネルギー供給不足の懸念も 古紙の価格が急速に高まっている。環境意識の高まりで、製紙原料に古紙がどれだけ使われたかを示す利用率は昨年、初めて6割を超え、急成長をする中国への輸出も膨らんでいるためだ。将来は発電ボイラー向けの燃料としての需要も見込まれている。回収率は上がっているものの、価格が高止まりし、供給不足も懸念され始めている。 |
| 日本経済新聞 2004年 2月28日 | 市況診断段ボール古紙 外需旺盛で高値続く 中国向け急増なら一段高も 段ボール原紙の主原料である段ボール古紙の国内価格は高値圏での動きが予想される。タイなどアジアの原料需要が旺盛で、輸出価格が高止まりするとみられるためだ。国内の大手板紙メーカーは減産を継続、高値での古紙購入を手控えているが、中国向けの輸出量が一段と増加した場合には買値の引き上げを迫られるだろう。 |
| 日本経済新聞 2003年 12月16日 | 古紙在庫 今年最低に 製紙原料となる古紙の問屋在庫が一段と減少した。指標となる関東主要古紙問屋32社の在庫率(出荷に占める在庫の割合)は11月末、前月末比1ポイント減の10%になり、今年の最低水準を更新した。アジア向けの輸出意欲が引き続き旺盛で、品薄感が続いている。 |
| 日本経済新聞 2003年 11月18日 | 古紙在庫が減少 今年最低の11% 関東古紙問屋32社 製紙原料となる古紙の問屋在庫が低下した。10月末の関東主要古紙問屋32社の在庫率(出荷に占める在庫の割合)は前月末比2ポイント減の11%になり、今年最低水準に並んだ。アジア向け輸出が堅調で、需給ひっ迫感が続いている。 |
| 日本経済新聞 2003年 7月3日 | 値決め革命 リサイクルの波紋 3 市況揺るがず再生原料 アジア需要で存在感増す (前略) 「湾岸戦争」。昨年秋以降、東京のベイエリアで繰り広げられた古紙問屋の激しい仕入れ競争を業界ではこう呼ぶ。江東区や大田区に古紙ヤードの新設が相次ぎ、都心で発生する古紙が高値で吸い寄せられた。仕向先は鉄スクラップと同様、アジアだ。 (中略) 古紙の輸出が爆発的に増えたのも2001年。輸出量は前年の4倍に達し、2002年も一段と増加した。アジアの古紙高は国内の段ボール原紙の価格交渉に影響を与え始めた。 段ボール原紙は原料の9割が古紙。原紙価格は2001年末から1年半にわたって横ばいが続いている。この間、段ボール古紙のメーカー買値(東京、問屋店頭)は70%以上上昇した。「古紙は蛇口をひねれば水が出るようにいつでも自由に買えた。」(製紙会社)時代は過去のものになりつつある。メーカーは原料高を背景に値上げを打ち出す時機をうかがう。 (後略) |
| 日本経済新聞 2003年 6月12日 | 新聞古紙 買値下げ 製紙大手、荷余り感が台頭 (前略) 関東の古紙問屋によると大手メーカーは現在、新聞古紙の購入数量を減らしている。春以降は古紙発生期になったこともあり、必要な原料在庫を十分確保しつつあるためだ。古紙需要の拡大を背景としたアジアからの引き合いも沈静化しつつあり、輸出価格と国内価格はほぼ同水準になっている。 (後略) |
| 日本経済新聞 2003年 6月10日 | 段ボール古紙 アジア向け価格反発 板紙の原料になる段ボール古紙のアジア向け輸出価格が反発した。指標となる関東製紙原料直納商工組合(東京・台東)の6月積み価格は1キロ10.4円(組合購入、問屋店頭)と前月比0.75円(8%)高で決まった。アジア市場で競合する米国産品が値上がりしたことが背景。割安感から引き合いも強い。 米国の段ボール古紙のアジア向け価格は1トン130-135ドル(運賃・保険料込み)と、5月下旬の約1週間で4-8%上昇した。同国内の製紙会社が5月中旬に積極的に古紙を調達したもようで、品薄感が強まった。これが日本品の輸出価格を下支えた。 (後略) |
| 日本経済新聞 夕刊 2003年 4月17日 | 再生原料の輸出急増 古紙・鉄スクラップ ... 中国で需要拡大 国内価格が上昇 古紙、鉄スクラップなど、製品にリサイクルする原料の輸出が大幅に増えている。経済成長が続く中国を中心にアジアの需要が急拡大しているため、日本は有力な原料供給国に躍り出た。輸出増で国内需給はひっ迫し、取引価格が上昇。再生原料を使う国内素材メーカーの収益を圧迫するなどの影響も出てきた。(後略) |

注：関連する内容のみ抽出した。特に重要な部分には下線を付してある。